

静岡市サッカースタジアムを活かしたまちづくり検討委員会

(令和4年度 第1回)

次 第

日 時 令和4年6月21日(火) 午後2時00分から
場 所 レイアアップ御幸町ビル 5D会議室

1 開 会

2 挨拶

3 委員自己紹介

4 委嘱状の交付

5 会長の選出

6 議 題

(1) 今年度の検討の進め方

資料1

(2) I A I スタジアム日本平の現状と課題

資料2

(3) 市民・利用者アンケート(案)

資料3

7 その他

8 閉 会

静岡市サッカースタジアムを活かしたまちづくり検討委員会

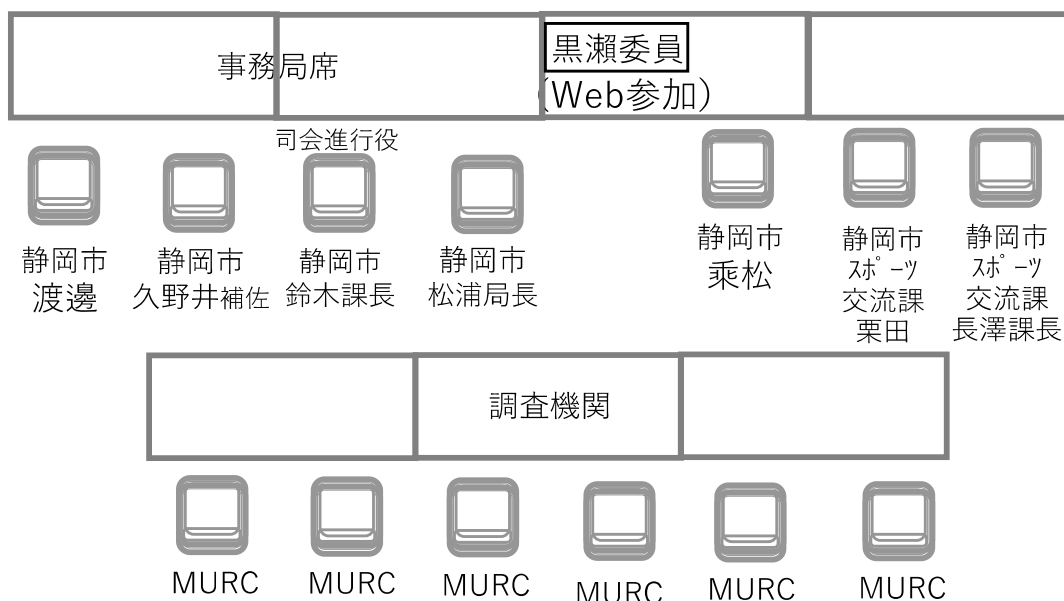
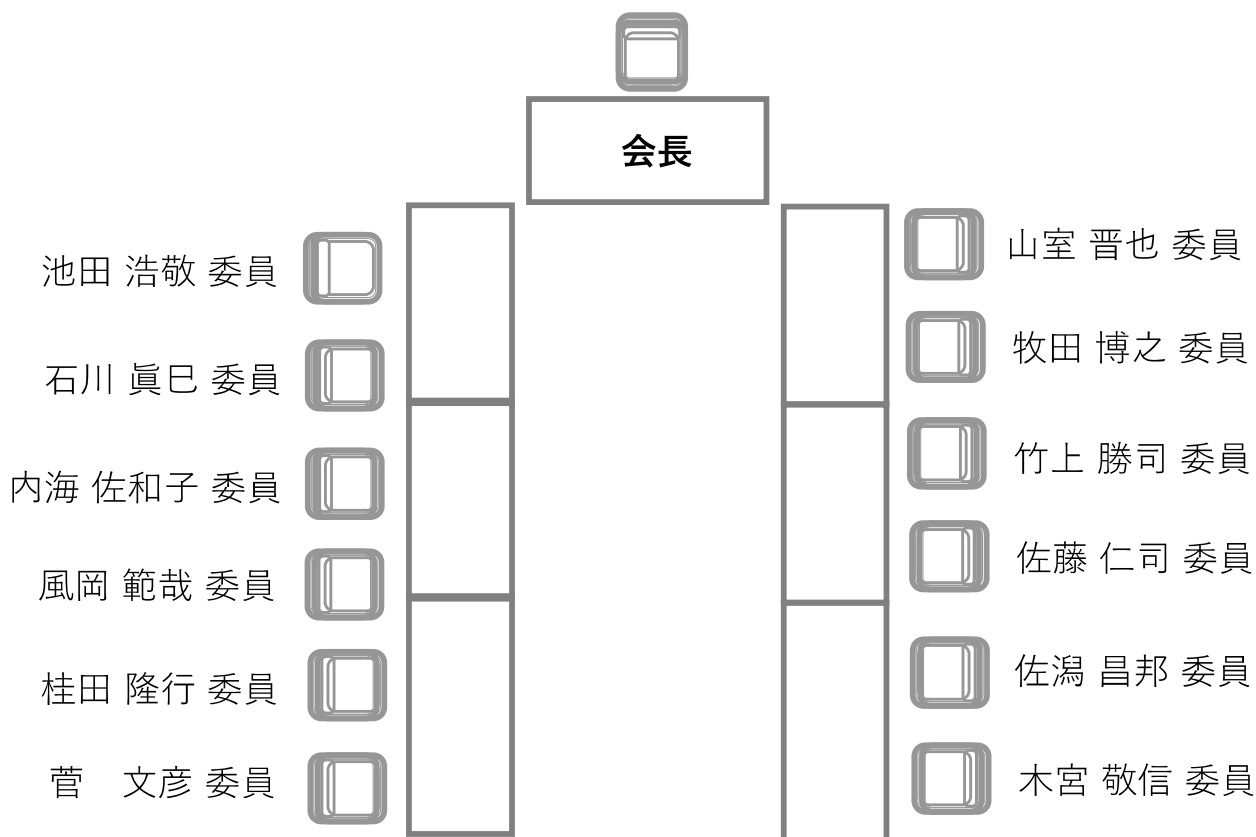
※敬称略 五十音順

所属、役職等	氏 名
常葉大学 社会環境学部 環境学科 教授	池田 浩敬
静岡商工会議所 専務理事	石川 眞巳
静岡県立大学 経営情報学部 経営情報学科 教授	内海 佐和子
市民委員	風岡 範哉
株式会社日本政策投資銀行 地域調査部 課長	桂田 隆行
大阪成蹊大学 経営学部 スポーツマネジメント学科 准教授	菅 文彦
常葉大学 教育学部 生涯学習学科 教授	木宮 敬信
九州大学大学院 人間環境学研究院 都市・建築学部門 教授	黒瀬 武史
市民委員	佐潟 昌邦
公益社団法人日本プロサッカーリーグ（Jリーグ） クラブ経営本部 クラブライセンス事務局 スタジアム推進役	佐藤 仁司
静岡市サッカー協会 副会長	高田 雅司
市民委員	竹上 勝司
静岡市サッカー協会 会長	牧田 博之
株式会社エスパルス 代表取締役社長	山室 晋也

第1回 静岡市サッカースタジアムを活かしたまちづくり検討委員会 座席表

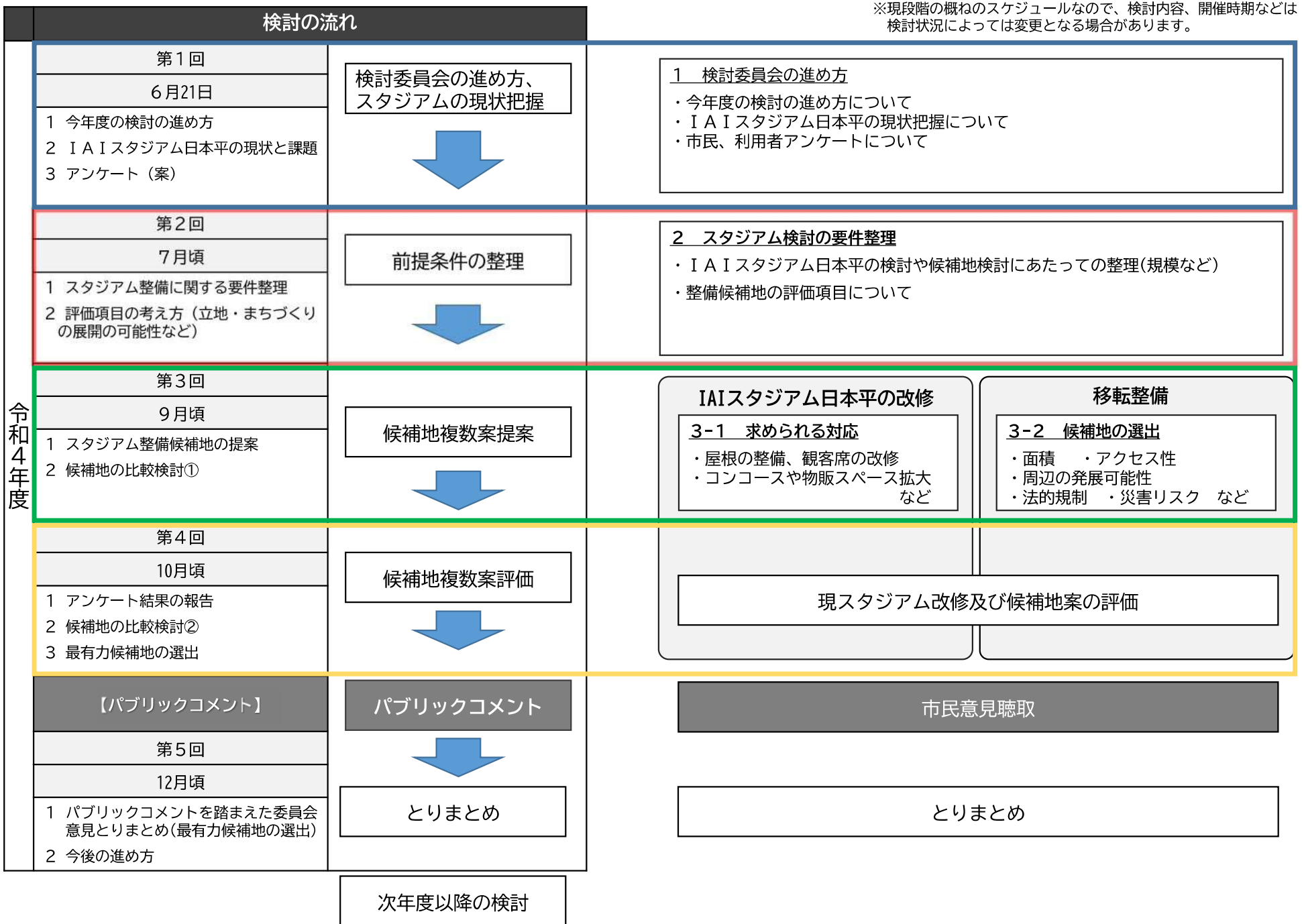
日時：令和4年6月21日（火）
14：00～

場所：レイアップビル御幸町 5D会議室



今年度の検討の進め方（案）

資料1



IAIスタジアム日本平の現状と課題

※令和3年度サッカースタジアム先行事例調査から抜粋し作成

IAIスタジアム日本平の概要

人口約70万人
(静岡市)

1991年、静岡市（旧清水市）に清水市日本平運動公園球技場として開場し、当初は13,216人収容であった。施設は静岡市が所有し、静岡スポーツスクエア共同事業体（公益財団法人静岡市まちづくり公社・（株）エスパルス）が指定管理者として運営管理を行なっている。

基礎情報

1. 施設所有者 静岡市
2. 指定管理運営者 静岡スポーツスクエア共同事業体
(公益財団法人静岡市まちづくり公社と株式会社エスパルスによる共同事業体)
3. 所在地 静岡市清水区村松3880-1（地図参照）
4. 施設概要
 - 開場年 1991年開業
 - 収容人数 20,299席

沿革

- 清水日本平運動公園球技場は、1991年6月に「サッカーのまち清水」のシンボリックな競技施設として完成し、同年、静岡県で行われた全国高等学校総合体育大会サッカー競技のメイン会場として使用された。
- 全国高校総体等における清水勢の活躍、1993年（平成5年）に華々しく開幕したJリーグに対応するため、清水エスパルスの本拠地として1995年3月に収容能力約20,000人の本格的球技場として生まれ変わった。

出所：IAIスタジアム日本平HP

位置情報



Googleマップより引用。©2022 Google

- 清水駅から約20分（シャトルバス）
- 日本平運動公園入口バス停から徒歩約10分
- 東名高速道路清水ICから約15分
- スタジアム周辺に7か所の駐車場を用意

建築物情報

- メインスタンドは建築から30年、バックスタンド・東西サイドスタンドは26年を経過している。（法定耐用年数：45年）
- 耐震性は「I b」であり、耐震性能が良い建物に分類されている。

資金調達等

- 命名権：株式会社アイエイアイとネーミングライツ契約を締結し、2013年3月1日から、『IAIスタジアム日本平』となっている。

Jリーグスタジアム基準への適合

J1・J2に残留または昇格することができる基準として、以下のような内容がスタジアムに必ず具備しなければならない条件として定められている。2021年9月時点で、I A Iスタジアム日本平は、この条件のうち、「屋根のカバー率が不足している」と判定されている。

Jリーグスタジアム基準[2022年度用]

名称	必要とされる設備	具備が必要とされている条件（例）
I. スタジアム規模等	スタジアム形状	フットボールスタジアムであること
	車椅子席	介助者の椅子を備えること/観戦の際の安全が確保されており、特に前列の観客により視野を妨げられないように設置すること
	観客席	どの座席からも、ピッチ全体が見渡せること。各スタンドは、異なるセクターに分離できること
	VIP席	メインスタンド中央部でスタジアム全体が見渡せる位置に屋根付きで個室を設置すること
	屋根	観客席の3分の1以上が覆われていること (新設又は大規模改修は原則すべての観客席を覆うこと)
II. 競技用設備	ピッチの寸法	105m×68m
	天然芝もしくはJリーグが認めたハイブリッド芝	平坦であること/常緑であること/水はけがよいこと
III. 諸室・スペース	看板関連	看板設置により、観客席の視界を妨げないこと/看板設置面が平坦であり、看板類が設置できないほど傾斜を急にしないこと
IV. アクセス関係	駐車場	公共交通機関が充実していない場所では、入場可能数に見合う台数の駐車場を確保すること
	シャトルバス乗降所	シャトルバスを運行する場合は、バスの行先別に待機列スペースがある乗降所を設置すること
V. 観客用設備	入場券売場	入場ゲート付近に窓口を設置すること/販売するチケットの席種、料金を掲示できること
	入場待機スペース	外周全体は夜間でも安全が確保できる照明を設置すること
	入場ゲート	観戦エリアに応じた入場ゲートを設置すること（ビジターサポーターの分離）
	トイレ	どの席からもアクセスが容易な場所に、男女別のトイレ設備を十分に設置すること

※未充足
(約26%)

スタジアム整備・改修の変遷

年月	整備・改修内容
1991年	13,216人収容のサッカー専用スタジアムとして整備 同年、全国高等学校体育大会サッカー競技の主会場として使用
1995年	Jリーグに参戦した清水エスパルスのホームスタジアムとして、収容能力約20,000人の本格的な球技場にリニューアル (バックスタンド、東西スタンドの増築、照明、電光掲示板、芝の張替え、放送室・VIPルーム等の新設)
2003年	ピッチの芝生全面張替え
2007年	大型映像装置の新設 同年、スタジアムの大規模改修（クラック補修、ゴムピッチ張替え、スタンド床補修等）
2009年	エレベーターを新設
2012年	Jリーグがクラブライセンス制度創設(2013年から「新設又は大規模改修は原則すべての観客席を覆うこと」が基準となる)
2014年	スタジアム基準に適合していないことから、制裁としてスタジアム名を公表される (スタジアムの屋根カバー率の不足、洋式トイレ等の不足)
2019年～	トイレの改修工事を開始（スタジアム基準の60%を充足するとともに、改修工事を続けることを前提に様式トイレに関する項目は制裁対象から除外）

スタジアムの利用実績（ピッチ利用）

年度	利用件数 (うち土日利用)	内訳			指定管理者 自主事業	その他 (会議室利用)	備 考
		エスパルス (試合)	エスパルス (練習等)	エスパルス以外の サッカー利用			
2017	57件 (36)	25件	4件	18件	7件	83件	
2018	51件 (28)	20件	4件	17件	7件	89件	
2019	58件 (29)	19件	7件	22件	8件	80件	
2020	36件 (28)	20件	5件	8件	1件	61件	※新型コロナウイルス感染症の影響により、利用件数が減少
2021	42件 (22)	26件	5件	6件	3件	80件	

出所：静岡市資料

他の J 1 クラブホームスタジアムとの比較

スタジアム名	クラブ名	所在地	所有者	運用者（指定管理者）	開業年	規模	ホームチーム 平均来場者数	総工費	スタジアム基準 適合状況
札幌ドーム	北海道コンサドーレ札幌	北海道札幌市	札幌市	株式会社札幌ドーム	2001年	41,566人	20,851人	537億円	基準達成
県立カシマサッカースタジアム	鹿島アントラーズ	茨城県鹿嶋市	茨城県	株式会社鹿島アントラーズF.C.	2001年	40,003人	20,569人	建設74億円 改修193億円	基準達成
埼玉スタジアム2002	浦和レッドダイヤモンズ	埼玉県さいたま市	埼玉県	埼玉スタジアム2002公園 マネジメントネットワーク	2001年	63,700人	34,184人	356億円	基準達成
三協フロンテア柏スタジアム	柏レイソル	千葉県柏市	(株)日立柏レイソル	株式会社日立柏レイソル	1985年	15,109人	11,402人	非公表	屋根カバー率不足
味の素スタジアム	FC東京	東京都調布市	東京都	株式会社東京スタジアム	2001年	48,013人	31,540人	307億円	基準達成
等々力陸上競技場	川崎フロンターレ	神奈川県川崎市	川崎市	公益財団法人川崎市公園緑地協会	1962年	26,827人	23,272人	59億円	基準達成
日産スタジアム	横浜F・マリノス	神奈川県横浜市	横浜市	横浜市スポーツ協会・管理JV共同事業体	1998年	72,327人	32,936人	603億円	基準達成
レモンガススタジアム平塚	湘南ベルマーレ	神奈川県平塚市	平塚市	平塚市	1986年	15,380人	12,848人	建設19億円 改修36億円	屋根カバー率不足
I A I スタジアム日本平	清水エスパルス	静岡県静岡市	静岡市	静岡スポーツスクエア共同事業体	1991年	20,299人	15,043人	建設23億円 改修42億円	屋根カバー率不足
ヤマハスタジアム	ジュビロ磐田	静岡県磐田市	ヤマハ発動機(株)	ヤマハ発動機株式会社	1978年	15,165人	12,768人	非公表	屋根カバー率不足
豊田スタジアム	名古屋グランパス	愛知県豊田市	豊田市	株式会社豊田スタジアム	2001年	44,380人	34,193人	451億円	基準達成
サンガスタジアム by KYOCERA	京都サンガF.C.	京都府亀岡市	京都府	合同会社ビバ&サンガ	2019年	21,600人	7,850人 ※注1	154億円	基準達成
パナソニック スタジアム 吹田	ガンバ大阪	大阪府吹田市	吹田市	株式会社ガンバ大阪	2015年	40,000人	27,708人	141億円	基準達成
ヨドコウ桜スタジアム	セレッソ大阪	大阪府大阪市	大阪市	一般社団法人セレッソ大阪スポーツクラブ	1987年	24,665人	21,518人	建設48億円 改修66億円	基準達成
ノエビアスタジアム神戸	ヴィッセル神戸	兵庫県神戸市	神戸市	楽天ヴィッセル神戸株式会社	2001年	30,132人	21,491人	230億円	基準達成
エディオンスタジアム広島	サンフレッチェ広島	広島県広島市	広島市	公益財団法人広島市スポーツ協会	1992年	45,000人	13,886人	83億円	屋根カバー率不足
ベスト電器スタジアム	アビスパ福岡	福岡県福岡市	福岡市	公益財団法人福岡市緑のまちづくり協会	1995年	21,562人	12,857人	100億円	基準達成
駅前不動産スタジアム	サガン鳥栖	佐賀県鳥栖市	鳥栖市	鳥栖市	1996年	24,130人	15,050人	67億円	基準達成

※ホームとするチームの平均来場者数については、新型コロナウイルスの影響を受ける前の2019年の J 1 リーグ戦を記載。2019シーズン J 2 であったチームについては J 1 でシーズンを過ごした年のものを記載。
 ※注 1 サンガスタジアムについては、2019年にスタジアムを整備していることから J 2 ではあったが、2019年の数値を記載。

出所： J リーグデータサイト、 J リーグリリース「クラブライセンス交付第一審機関（ F I B ） 決定による 2022シーズン J リーグクラブライセンス判定について」、各スタジアムHP

施設管理者へのインタビューから見えた課題

【指定管理者】

静岡スポーツスクエア共同事業体

(公益財団法人静岡市まちづくり公社と株式会社エスパルスによる共同事業体)

利用状況

- J1リーグ及び天皇杯・ルヴァンカップの利用は、年間25日程度であり、高校生や一般のサッカー利用を含めても40～50日程度の稼働である。
- サッカー以外の興行利用実績はほぼなく、収益源は限られている。

設備

- スタジアム建設から30年以上経過しており、施設としての魅力が乏しい。
 - ✓ 増築した関係もあり、コンコースが狭隘。
 - ✓ 和式トイレの割合が高い。
 - ✓ 屋根の専有面積が不足している。
 - ✓ 座席スペースが狭く、ドリンクホルダーがない。
 - ✓ 背もたれ席がバックスタンドの1,600席しか無い。
 - ✓ 平椅子が1列あたり20席設置されており、トイレに行きづらい。
 - ✓ VIPルームの数が少ない。
- モバイル通信について、ハーフタイムにつながらないケースがままある。

実施日

2021年11月17日

立地

- JR静岡駅およびJR清水駅からシャトルバスが出ているが、仕事が終わってからの来場となると、キックオフに間に合わない方が多くいる。
- JR清水駅からバスで20分かかるなど、公共交通でのアクセスに課題がある。また、一般利用者駐車場は700台。
- 住宅地近隣にあるので、音や夜間の光についても留意する必要がある。

課題まとめ

- 現状のIAIスタジアム日本平は、Jリーグのスタジアム基準で定められている「観客席の屋根のカバー率が不足している」という課題がある。
 - Jリーグスタジアム基準 ①新設及び大規模改修を行うスタジアムについては、原則として屋根はすべての観客席を覆うこと。
 - (屋根に関する事項) ②すべての屋根を覆うこと(観客席の3分の1以上が覆われていること：Jリーグクラブライセンス交付規則 施設基準B等級)
- スタジアム基準外ではあるが、交通アクセスや座席等の設備の経年劣化といった課題がある。

無作為抽出で選ばれた市民とスタジアム利用者等に対して、サッカーへの関心やI A Iスタジアム日本平での観戦の有無、サッカースタジアムに求めるものなどのアンケートの2つを実施し、幅広い市民の方々から意見をいただき、候補地の検討に活用する。

【市民アンケート】

- 目 的：無作為抽出した市民にアンケートを送付し、市民のサッカースタジアムに関する意見を聞くことで、検討委員会でサッカースタジアムのあるべき姿について議論する際の参考とする。
- 時 期：7～8月頃を想定
- 対象者：令和4年4月1日現在静岡市に住所を有する者
- 発送数：1,500人（※回答率50%弱を想定）
- 方 法：郵送調査（※回答はWE B対応も検討）
- 設 問 ① サッカーへの興味関心
 ② I A Iスタジアム日本平で観戦したことの有無
 ③ サッカースタジアムに求めるもの（まちへの波及効果、アクセスしやすい立地、サッカー以外の機能の複合化など） など

【ファン・スタジアム利用者アンケート】

- 目 的：スタジアム来場者(ホーム及びアウェイ来場者)やサッカーファン、スタジアムに興味関心も持っている方にインターネット上でアンケートを実施し、サッカーファン、I A Iスタジアム日本平の利用者ニーズを把握する。
- 時 期：7～8月頃を想定
- 対象者：サッカーファン、スタジアム来場者（ホーム及びアウェイ）など
- 方 法：WE B調査
- 内 容：回答者の属性及び下記の質問
- 設 問 ① サッカーへの興味関心
 ② I A Iスタジアム日本平で観戦したことの有無
 ③ サッカースタジアムに求めるもの（まちへの波及効果、アクセスしやすい立地、サッカー以外の機能の複合化など）
 ④ I A Iスタジアムの課題
 ⑤ I A I以外でおすすめのスタジアムとその理由
 ⑥ 観戦時の消費額 など

参考資料：国内のスタジアム事例の整備・管理運営スキーム

スタジアム事例の整備・管理運営スキームの一覧

参考

※令和3年度サッカースタジアム先行事例調査から抜粋

大

民間事業者の関り

小

	ES CON FIELD HOKKAIDO	里山スタジアム	Panasonic Stadium Suita	MAZDA Zoom-Zoom Stadium	サンガスタジアム by KYOCERA 埼玉スタジアム2002	ミクニスタジアム 北九州
概要	・民間事業者が整備、所有、管理運営	・民間事業者が整備、所有、管理運営 ・自治体が整備費の一部を補助(財源はふるさと納税)	・民間事業者が整備し、自治体に寄付。(自治体が所有) ・管理運営については独立採算で指定管理	・自治体が整備、所有。(整備費は利用者である球団が施設利用料として納付) ・管理運営は独立採算で指定管理	・自治体が整備、所有。 ・管理運営は利用料金併用制で指定管理	・自治体がPFIによって整備、所有。 ・管理運営はPFI契約を締結している特別目的会社が担う
スキーム図						
整備資金調達	・ 事業者が調達	・ 個人・企業の寄付やふるさと納税と事業者の調達の混合	・ 事業者が個人・企業による寄付によって調達	・ 広島市が整備（地方債を起債）したが、起債償還原資は事業者からの納付金で充当	・ 京都府埼玉県が整備	・ 市が地方債を起債
運営及び改修、修繕などの状況	・ 運営は事業者の独立採算 ・ 改修、修繕については、事業者が実施	(支払いスキームは検討中)	・ 運営は事業者の独立採算 ・ 改修、修繕については、事業者が長期修繕積立金を市に納付し市が基金化	・ 運営は事業者の独立採算 ・ 起債償還原資は事業者からの納付金等で充当	・ 施設整備費は市が負担 ・ 運営費を府(県)が負担	・ 施設整備費用はPFI事業者に建後支払 ・ 運営費は市がPFI事業に支払
底地権利	・ 事業者が北広島市の都市公園を無償で設置許可を受ける	・ 今治市の敷地を無償で事業者に貸付	・ 吹田市の都市公園の公園施設として整備	・ 広島市有地に行政財産(公の施設)として整備	・ 亀岡市が京都府に無償貸与(埼玉県が所有)	・ 民有地を借地
スタジアム所有	・ 事業者が所有	・ 事業者が所有	・ 吹田市が所有	・ 広島市が所有	・ 京都府埼玉県が所有	・ 北九州市が所有
スタジアム整備	・ 事業者が整備	・ 事業者が整備	・ 任意組が整備し、市に整備後負担付寄付	・ 広島市が整備したが、設計には広島カーブが関与	・ 京都府埼玉県が整備	・ PFI事業者が設計・施工
スタジアム運営	・ 事業者が運営	・ 事業者が運営	・ 事業者が指定管理の指定を受け運営(独立採算)	・ 事業者が指定管理や各種協定を締結し運営(独立採算)	・ 京都サンガ、浦和レッズが指定管理者の指定を受け運営(混合型)	・ PFI事業者が運営(ただし、利用料金制は導入されていない)

参考資料：他のスタジアム整備事例

参考

名称	パナソニックスタジアム吹田 (参照：スポーツ庁HP、ガンバ大阪HP、パナソニックスタジアム吹田HP)										ミクニワールドスタジアム北九州 (参照：日経BPHP、北九州市HP、ミクニワールドスタジアム北九州HP、(一社)PC建設協HP)											
所在地	大阪府吹田市										福岡県北九州市											
地権者	大阪府（府立公園内）										民間（市が借地権設定）											
アクセス	鉄道駅から徒歩20分										新幹線駅から徒歩7分											
竣工	2015年9月										2017年1月											
収容人数	40,000人										15,300人											
整備手法	任意団体（スタジアム建設募金団体）を設立して募金を募り建設主体となる。建設後に、スタジアムを吹田市に寄付。										PFI（BT0方式）（事業者が設計・建設し、市に所有権移転後、維持管理・運営を15年間）											
建設主体	任意団体										PFI業務受託者（SPC代表企業：㈱九電工）											
建設費	約141億円（法人寄付約99.5億円、個人寄付約6.2億円、toto助成金30億円、国庫補助約5.1億円）										約99.9億円（市債68.3億円、一般財源約0.2億円、国庫補助金等約1.4億円、toto助成金30億円）											
所有者	吹田市										北九州市											
運営	指定管理（ガンバ大阪）										PFI（美津濃㈱、㈱日本施設協会）											
整備スケジュール	2008年度 (1年目)	2009年度 (2年目)	2010年度 (3年目)	2011年度 (4年目)	2012年度 (5年目)	2013年度 (6年目)	2014年度 (7年目)	2015年度 (8年目)	—	—	2008年度 (1年目)	2011年度 (2年目)	2010年度 (3年目)	2011年度 (4年目)	2012年度 (5年目)	2013年度 (6年目)	2014年度 (7年目)	2015年度 (8年目)	2016年度 (9年目)	—		
	●スタジアム種別発表	●建設募金団体設立	●設計事業者決定	●候補地決定	●募金開始	●建設工事着工	●募金終了	●供用開始竣工	—	—	●総合計画に球技場を位置づける	●新球技場基本計画策定・候補地決定	●基本方針策定	●事業計画策定	●PFI事業者決定	●設計着手	●工事着手	●供用開始	—	—		
名称	サンガスタジアム by KYOCERA (参照：京都サンガFCHP、日経BPHP、日本建築学科HP、京都府HP、京都市HP)										中央公園サッカースタジアム（仮称） (参照：広島県HP、広島市HP)											
所在地	京都府亀岡市										広島県広島市											
地権者	府、市（区画整理事業地を購入）										広島市（中央公園広場）											
アクセス	鉄道駅から徒歩3分										鉄道駅から徒歩10分											
竣工	2020年1月										2023年度開業予定											
収容人数	21,600人										28,520人											
整備手法	従来方式										DB方式（設計・工事を一括発注）を基本とする											
建設主体	京都府										広島市											
建設費	約154億円（府債約112億円、一般財源約4.9億円、府基金約5.6億円、toto助成金30億円、寄附約2.1億円）										約271億円（県・市約100.4億円、利用料収入を充当する市債約27.1億円、国庫補助金約80.1億円、寄附金約63億円、民間資金約0.3億円）											
所有者	京都府										広島市											
運営	指定管理（合同会社ビバ&サンガ）										指定管理者制度を採用することを基本とする											
整備スケジュール	2011年度 (1年目)	2012年度 (2年目)	2013年度 (3年目)	2014年度 (4年目)	2015年度 (5年目)	2016年度 (6年目)	2017年度 (7年目)	2018年度 (8年目)	2019年度 (9年目)	—	2013年度 (1年目)	2014年度 (2年目)	2015年度 (3年目)	2016年度 (4年目)	2017年度 (5年目)	2018年度 (6年目)	2019年度 (7年目)	2020年度 (8年目)	2021年度 (9年目)	2022年度 (10年目)	2023年度 (11年目)	
	●京都府が用地の無償提供を募る	●候補地が亀岡市に決定	●アコモドキに与える影響調査	●基本設計	—	●実施設計	●アコモドキへの影響から候補地を変更	●工事着工	●供用開始	—	●検討会議発足	●候補地を2案選定 実現可能性調査の実施	●候補地を追加（中央公園）	●候補地を2案選定 実現可能性調査の実施	●候補地を2案選定 実現可能性調査の実施	●候補地を2案選定 実現可能性調査の実施	●候補地を2案選定 実現可能性調査の実施	●基本方針を策定	●基本計画を策定	●基本設計	●実施設計・準備工事	●募金開始

※この資料はインターネットで情報収集したものであり、実際の運用と異なる場合がある。